



プレスリリース

2021年12月20日

山口県下関市での新母船建造を内定

当社は12月16日の取締役会において、新母船を山口県下関市の旭洋造船(株)で建造することを内定いたしました。

母船式捕鯨の母港化を目指す下関市と山口県からは、かねてから同市での日新丸に代わる新母船の建造を求められており、そのご要望にお応えすることといたしました。また、同市・同県からは新母船の建造とともに、同市への事業拠点の設置についても要望を受けており、この点についても出張所を設置する方向で前向きに検討することといたします。

新母船の特徴は、将来ナガス鯨が捕獲できるように70トンの揚鯨能力を備え、船体のコンパクト化を両立するため電気推進船とします。また、解剖甲板を船上から船内に変更し、衛生環境を強化します。さらに、製品の保冷設備を冷倉からリーファーコンテナに変えることで、製品管理の強化と製品荷揚げの効率化を図ります。

新造船の今後のスケジュールとしては、来年2月に造船所と本契約を締結し、9月から起工の予定です。その後、翌年2023年11月に進水させ、2024年3月に竣工、同年から新母船による操業を開始し、自立した捕鯨業者として持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

新母船のイメージ図



新母船の主な要目

全長	112.6m
船幅	21m
総トン数	約 8970t
航海速力	12kt
航海日数	60日
航続距離	7000海里(南極海到達可能)
定員	91名
揚鯨設備	スリップウェイ方式、揚鯨ウインチ(70t揚鯨可能)
推進方式	電気推進、2基2軸、固定ピッチプロペラ
保冷設備	リーファーコンテナ 800t(20feet(20t)×40基) 袋製品保冷库 60t 合計 860t
製品陸揚	船側ランプウェイ方式
その他設備	探鯨用大型高性能ドローンデッキ